

連載⑦
内海善雄の
 (ITU前事務総局長)
やぶ睨み
「ネット社会」論

ICT産業凋落はセロトニン欠乏症？ 解決方法は、老人健康法の実践

とをしてもトルコ語を話せない。
 かつて国際社会で英語の下手な国民といえ
 ば、日中韓が決まり相場であったが、中韓の
 経済発展に伴う国際化で彼らの英語力は飛躍
 的に向上した。先に発展していた日本人だけ
 がなぜ取り残されているのか理由が分かった
 ような気がする。

しかし、日本人にも例外がある。筆者の後
 輩で韓国とインドネシアの大使館に向出した
 者の中に、一年もしない間に現地語を話すよ
 うになった者がいる。留学経験もないごく普
 通の青年たちだが、日本での勤務態度は極め
 て積極的で、上司に対しても恐れを知らぬ不
 遜な態度がとれる者であった。もしかすると
 彼らはセロトニン・トランスポーターをトル
 コ人並みに持っているのかもしれない。

海外でパーティーに出席すると、多くの日
 本人は隅のほうで仲間同士かたまっている。
 そんな中で日本の政治家が出席すると、ろく
 に英語も話せないのに堂々と外人の輪の中
 に入り、愛嬌を振りまいている。彼らはセロト
 ニン・トランスポーターの数が多く人種なの
 だろうか。

うである。ソ連郵政省の高官であった友人か
 ら何度も聞かされた話は、「日本の企業はス
 ピード感がなく、調査と会議ばかりだ。しか
 し、一旦決定されると完璧な仕事をする。そ
 のことがソ連政府に理解される前に、商談は
 他国企業に取られている」ということであっ
 た。これは官僚主義と非効率で崩壊したソ連
 政府高官の言である。

ビジネスでも失敗を恐れる日本人

筆者が大学を卒業して最初に就職したのは、
 一流のICTメーカーであった。そこでよく
 聞いた話は、「優秀なあの人は、××プロジ
 エクトで失敗したのもう浮かばれない」と
 という類の噂話であった。この社会は今、苦境
 のどん底にある。一方、現役を退き、顧問と
 して世話になったトヨタで幹部からよく聞い
 た話は、「私は、ラインを止めた」という失
 敗の自慢話であった。

かつて世界を制覇した日本のICT産業は
 苦境に喘いでいる。技術と人材、資金力があ
 りながら日本企業は敗退した。電子交換機の
 通信網からインターネットへ、携帯電話の3
 G化、携帯電話からスマホへと大きな通信革

セロトニン不足で外国語が下手

日本人は、間違った英語を話して恥ずかし
 いと思ひ、なかなか話さず上達しない。脳科
 学者の中野信子氏によると、脳内の「セロト
 ニン」という神経伝達物質が十分にあると、
 安心感を覚え、やる気も出る。だが、日本人
 は、セロトニンの量を調節しているセロトニ
 ン・トランスポーターというたんぱく質の数が
 少ない人の割合が世界で一番多く、セロト
 ニンが不足して世界一、不安になりやすい民
 族だそうだ。そのため英語を話そうとせず、
 上達しないという。

トルコのイスタンブールを歩くと多くの人が
 日本語で話しかけてくる。彼らは、一年間
 ぐらい勉強するとほぼ完璧に日本語を話すこ
 とができるという。しかし、日本人は同じこ

命の流れの中で、日本企業はシスコ、ノキア、
 サムソン、ハウエイ等の海外企業に取って代
 わられた。経営者や解説者から、独自規格、
 高賃金、円高などの日本がダメになったもつ
 ともらしい理由を多く聴かされたが、ITU
 (国際電気通信連合) から世界を見ていた筆
 者にはすべて言い訳しか思えなかった。本
 当の理由は、先を読みリスクを取る決断に躊
 躇したことに尽きるところ。

以上のような日本人の傾向は、日本人は生
 まれつきセロトニン・トランスポーターが少
 ないからだといわれると納得がいくような気
 になる。中野信子氏によると、日本人も三三
 ぐらいはセロトニン・トランスポーターが多
 い人がいるが、九三%は、不安になりやすい
 人たちだそうだ。一方、米国人は三三%の人
 が多く持っていることである。



迷う前に実践する積極性が欲しい

ればよいのではないかと思う。ネットを検索
 すると、多くのセロトニンのサプリメントが
 販売されている。これを摂取すると、不安も
 消え、元気になり、リスクを取って積極的に
 なるのだろうか？ もしそうならば、「一
 億総活躍社会」の実現にも大いに貢献できそ
 うだ。ここはぜひ、専門家の意見を聞きたい
 ものである。

生活習慣がセロトニンを減らした？

さらに、ネットにはセロトニンを増やす方
 法が載っている。どの記事もほぼ同様で、以
 下のようなものである。

- ① 早寝早起きの規則正しい生活を心がける
- ② 太陽の光を浴びる
- ③ リズミカルな運動をする
- ④ 食事を摂る際に、よく噛む
- ⑤ グルーミング・スキんシップを行う
- ⑥ トリップトファンを含む食品(肉、乳製品、豆等)を食べる
- ⑦ 腸内環境を整える

これらはまさに、老化予防の健康法その
 のものではないか。

さて、ここからは素人の推測である。
 日本のICT産業がダメになった理由は、
 日本が豊かになるにつれて、生活環境が
 変化したことにあるのではないだろうか。
 戦後の貧しい時代には、大家族で、早
 寝早起きし、太陽の下をよく歩き、少な

い食事をよくかんで食べた。しかし、今の都
 会生活は、小世帯で、夜遅くまでテレビやパ
 ソコン、加工食品を口に掻き込み、化学飲料
 やアルコールを多飲し、エスケーターやエ
 レベーターを使い、歩くことも少ない。
 便利で快適だが、健康的とはいえない生活
 に一変している。

遺伝的にセロトニンの少ない日本人は、知
 らない間にさらにセロトニンの分泌が少なく
 なるような生活習慣になってしまっている。
 そして、より不安傾向が強くなり、元気もな
 くなった。若者は、決められたことは真面目
 にこなせるが、覇気を失い、経営者たちも前
 例に従い、横並びをすることで安心感を得る。
 リスクを取るようなことができなくなっ
 ったのである。

この素人の推測が当たっていたなら、行き
 詰まった日本の現状からの脱皮は、若い時か
 らの老化予防の健康法実践ということになる。
 当たってはいなくとも、健康になれるならそれ
 に越したことはないではないか。



内海善雄(うつみ よしお)
 1942年香川県高松市生まれ。東大(現
 法政大学)法学部卒。東芝を経て66年郵政省(現
 総務省)入省。電気通信の自由化(98年
 通信放送政策を長く担当。98年
 国際電気通信連合(ITU)事務総
 局長就任。現在は一般財団法人「海
 外通信・放送コンサルティング
 力」理事長。IEEE名誉会員。